2 (い) 言い切り(体言止め)

↓ P 2 8 L 1 風薫る五月。

初夏の爽風のこと。

P 2 8 L 3 一方を海に囲まれた温暖な地。

ぎ 擬人法(人にたとえる)

ぎじんほう

↓ P 3 1 L 1 五月の風に会うたびに

3 左のもの以外にも、答えは考えられます。授業が始まったら意見をこうかんしましょう！。

音

P 2 9 L 5 帰宅時間を知らせるチャイム

L 7 たかぶる水の音 L 8 チャイムの音色

声

P 3 0 L 2 「さあ、そろそろ帰ろうか。」

香

P 2 8 L 1 花みかんの香り

P 2 9 L 3 花みかんの香り L 8 花みかんのにおい

L 1 0 花みかんの香り L 1 1 なき祖父の着物のにおい

P 3 0 L 4 ころものにおい L 9 ほのかなしようなのにおい

L 1 2 花みかんの風

はだ

P 3 0 L 3 生まれた時からなじんでいる祖父のぬくもり

L 9 着物の風合い

L 1 0 祖父のふところは、いつもじつとりとじつめていた。

4 花みかんの香り 解答例

子どものころ、みかん畑の広がるうら山で、宝ものをうめたり、かくれんぼをしたりして遊ぶことに夢中だった思い出。帰宅時間を知らせるチャイムや夕暮れが近づくと、いっそうにおう花みかんの香りや、暮れぎわの山のりよう線、高ぶる水の音の思い出。

祖父の着物のにおい 解答例

いつも遠巻きに私が遊ぶ姿をながめていた祖父の姿。年老いても大変なしゃれ者で、四六時中しゃれたアンサンブルの和服を着ていた自慢の祖父の姿。着物の風合いとほのかなしようなのにおい、じつとりとじつめていたふところ。

5 薫風といってもそれぞれの香りがあり、また思い出がある。